

報告書

AJAPE 第 8 回教育フォーラム —「虹の架け橋教室」過去・現在・未来—

2014 年 8 月

特定非営利活動法人日本ペルー共生協会
(Asociación Japonés Peruana、^{ア ハ ペ}AJAPE)

はじめに

2014年8月10日、大和市生涯学習センターにおいて、「虹の架け橋教室」過去・現在・未来」をテーマに、「AJAPE 第8回教育フォーラム」を開催いたしました。

開催の趣旨

AJAPE は 2009 年 11 月より大和教室で、文部科学省・国際移住機関の「定住外国人の子どもの就学支援事業」による「架け橋教室」運営の委託を受け、不就学、不登校、学齢超過の外国につながる子ども（外国人児童生徒）のための教室を運営しています。地元である神奈川県大和市、その近隣の小・中学校から様々な児童生徒が通ってきています。来日直後の日本語のわからない子ども、学校に入っているにもかかわらず教科学習についていけない子ども、日本語をうまく使いこなせず孤立し登校できなくなってしまう子ども、心のケアを母語で行う必要のある子どもなど様々なケースに対応してきました。地元の大和市とはもちろんのこと、海老名市、座間市、綾瀬市、厚木市、相模原市、横浜市などの教育委員会や学校と連携協力を取りながら、子どもを受け入れ送り出してきました。

「定住外国人の子どもの就学支援事業」は 2015 年 2 月をもって終了、「架け橋教室」は閉室となります。2014 年度「架け橋教室」運営の委託を受けた団体は全国で 22 あります。支援事業が終了し、AJAPE や他の 21 団体は「架け橋教室」を閉じますが、支援を必要とする子どもたちがいなくなるわけではありません。来年度からの支援のあり方が問われます。

今回のフォーラムで、AJAPE が行ってきた「架け橋教室」のこれまでと今をご報告し、今後子どもたちにどのような支援・対応が必要なのか考えていきたいと思います。

AJAPE 副会長 高橋悦子

フォーラムでは、まず AJAPE のスタッフ 4 名が報告を行いました。

- 1) 「虹の架け橋教室」と AJAPE 大和のこれまで（高橋悦子）
- 2) AJAPE での日本語指導（矢沢悦子）
- 3) 教室コーディネーターとして（高野菜穂子）
- 4) 私が見た AJAPE の「虹の架け橋教室」（羅朝子）

休憩後、東京外国語大学留学生日本語教育センター教授の伊東祐郎氏に、「今後子どもたちにどのような支援・対応が望まれるのか」と題したお話をいただきました。

当日、約 30 名の参加がありました。大型台風の影響で朝から断続的に大雨が降ったため、参加したいと言っていた方々の参加取りやめが相次ぎました。「虹の架け橋教室」の子どもも大雨でなかったら、保護者とともに参加してくれたことでしょう。残念でした。

しかしながら、来賓の方々の外に、大和市職員の方、大和市国際化協会の方、大和市の小中学校の先生方、また、一般の方々も会場にいらしてくださいました。心から感謝申し上げます。

プログラム

第8回教育フォーラム —「虹の架け橋教室」過去・現在・未来—

2014年8月10日（日）

場所：大和市生涯学習センター

1. 開会 10:00-10:05

挨拶 アルベルト パラシオス パウロブスキ
(特定非営利活動法人日本ペルー共生協会会長)

2. 来賓紹介 10:05-10:15

ペルー共和国大使館 公使参事官 マルコ・サンティバニユス氏
国際移住機関（IOM）駐日代表 ウイリアム・バリガ氏
国際移住機関（IOM）就学支援事業担当 山野上麻衣氏
大和市国際・男女共同参画課課長 船越英一氏
大和市公立中学校校長会 会長 篠原正敏氏（引地台中学校校長）
大和市公立小学校校長会 会長 丸山弘司氏（文ヶ岡小学校校長）
大和市教育委員会：指導室・指導主事 清水恭氏
東京外国語大学・留学生日本語教育センター教授 伊東祐郎氏

3. 来賓挨拶 10:15-10:20

ペルー共和国大使館 公使参事官 マルコ・サンティバニユス氏

4. 報告 10:20-11:40

- 1) 「虹の架け橋教室」と AJAPE 大和のこれまで（高橋悦子）
- 2) AJAPE での日本語指導（矢沢悦子）
- 3) 教室コーディネーターとして（高野菜穂子）
- 4) 私が見た AJAPE の「虹の架け橋教室」（羅朝子）

休憩

5. 今後子どもたちにどのような支援・対応が望まれるのか 11:50-12:10

東京外国語大学・留学生日本語教育センター教授 伊東祐郎氏

6. フロアとの対話 12:10-12:25

7. 閉会 12:25-12:30

挨拶 高橋悦子（特定非営利活動法人日本ペルー共生協会副会長）

目 次

はじめに	i
プログラム	ii
開会の辞	
アルベルト・パラシオス・パウロブスキ (特定非営利活動法人日本ペルー共生協会会長)	1
来賓挨拶	
マルコ・サンティバニユス (ペルー共和国大使館 公使参事官)	2
報告	
1. 「虹の架け橋教室」と AJAPE 大和のこれまで (高橋悦子)	3
2. AJAPE での日本語指導 (矢沢悦子)	9
3. 教室コーディネーターとして (高野菜穂子)	13
4. 私が見た AJAPE の「虹の架け橋教室」(羅朝子)	19
「今後子どもたちにどのような支援・対応が望まれるのか」	
伊東祐郎 (東京外国語大学・留学生日本語支援教育センター教授) ...	22
フロアとの対話	29
閉会の辞	
高橋悦子 (特定非営利活動法人日本ペルー共生協会副会長)	33
資料	
1. 大和市立小中学校教員へのアンケート	34
2. 神奈川県内の外国人人口	43
3. 大和市外国人比率	44
4. 定住外国人の子どもの就学支援事業	45

開会の辞

アルベルト・パラシオス・パウロブスキ
特定非営利活動法人日本ペルー共生協会会長

皆さん、おはようございます。AJAPE 会長パラシオスと申します。私用で参加できないため、このビデオレターでご挨拶させていただきます。

本日はお暑い中を皆さん御参加いただきまして誠にありがとうございます。これから「虹の架け橋教室」についてフォーラムを開催させていただきます。皆さんの活発な議論、意見交換を期待いたしております。よろしくお願いいたします。

Buenos días con todos.

Soy el presidente de AJAPE y estoy a través de este video aperturando el forum sobre el Kakehashi-kyoushitsu que es un proyecto que se inició en noviembre del año 2009 y termina el proximo año en febrero.

Todos estos cinco años nosotros nos hemos visto favorecidos por el Ministerio de Educación del Japón (Monbukagakusho) y la oficina Internacional de Inmigraciones que provee los fondos para este tipo de proyectos.

Lo que queremos en este forum es hacerles saber lo que hemos hecho en estos cinco años, lo que estamos haciendo actualmente y qué lo que esperamos hacer posterior al término de este proyecto.

Espero que contribuyan con sus opiniones y participen en la discusiones respecto a los tópicos que se van a discutir hoy día.

Muchas gracias.

来賓挨拶

マルコ・サンティバニェス氏

ペルー共和国大使館 公使参事官

Sr. Marco Antonio Santiváñez Ministro consejero

Jefe de Cancillería de la Embajada del Perú en Japón

皆様おはようございます。ペルー共和国大使エラルド・エスカラ氏は、本日せっかくのご招待をいただきながらすでに予定がありましたためにお伺いできませんでした。大使の名代として私がここに参り、大使の言葉を皆様にお伝えさせていただきます。

まず皆様に本日ペルーと日本の友好関係を結ぶための絆づくりのために努力していらっしゃる皆様の会へ御招待をしていただき心より感謝申し上げます。思うに、ペルーは日本が正式に交流関係を持ったラテンアメリカ諸国で最初の国であります。2013年はその交流がはじまってから140周年目に当たりました。また日本からペルーへの移民が始まってから115年が経過しました。最近では逆にペルーから日本に移動するようになっており、20年以上経過しています。現在日本に住んでいるペルー人は約5万人で、日本国内の外国人数の第6位です。前年度の5位に比べて第6位になった理由はベトナム人の増加によるものです。

日本に住む外国人へのバイリンガル教育が続いていき、日本の社会で共に住むための重要な人材に育っていくことを切に願っております。

皆さんのますますのご発展をお祈り申し上げます。

Muy buenos días tengan todos ustedes. Deseo transmitir el saludo del Embajador del Perú en Japón, Sr. Elard Escala, quien no ha podido asistir a este evento, como hubiera sido su deseo por motivos de agenda contraída con antelación.

Les agradezco por haberme invitado a esta reunión en la que se refuerzan los lazos de confraternidad entre el Perú y Japón. Cabe recordar que el Perú es el primer país de Latinoamérica en establecer formalmente relaciones diplomáticas con Japón. En el año 2013 se cumplieron 140 años desde que se iniciaron estos intercambios. Han transcurrido 115 años desde el inicio de la inmigración japonesa al Perú, así como también más de 20 años de la inmigración peruana al Japón. Actualmente el número de peruanos que viven en Japón es de aproximadamente 50,000 personas. Hace dos años nos ubicábamos en el 5to lugar como la población mas grande de extranjeros en Japón, pero con la reciente inmigración de vietnamitas, nos ubicamos en el 6to lugar. Nuestro deseo es que se continúe con la educación bilingüe de los extranjeros que viven en Japón, toda vez que constituye una importante herramienta de integración en la sociedad japonesa.

Mis mejores deseos para el desarrollo de todos.

報告 1

「虹の架け橋教室」と AJAPE 大和教室のこれまで

高橋 悦子（日本ペルー共生協会）
takaet@jcom.home.ne.jp

1. 文部科学省・国際移住機関（IOM）の「虹の架け橋教室」事業について

1) スタートまでの経緯とその後の展開

「架け橋教室」プロジェクトがスタートする背景には、急激に増加した日系人の存在がある。1988年にはわずか4000人程度であったブラジル人が、1990年の法改正¹の影響もあるが、2007年には317,000人にもなっている。また、2008年には世界的な景気悪化の影響により、ブラジル人学校に通わせていた保護者が学校への授業料の支払いが困難となり、学校に通えなくなる子どもが増加した。そこで文部科学省は日本語の指導や学習習慣の確保のために「定住外国人の子どもの就学支援事業」を開始した。子どもと学校との架け橋の役割を果たしてほしいとの思いから「虹の架け橋教室」と呼ばれている。

その後「虹の架け橋教室」の対象はブラジル人のみならずペルー、中国、ベトナム、フィリピン、カンボジア人などに広がった。「架け橋教室」事業を委託された団体は、外国人集住地域にある市教育委員会や大学法人、特定非営利活動法人、ブラジル人学校などで、地域の事情に応じ、様々な団体により運営されている。また、この事業では子どもたちを就学に向かわせること以外にも成果をあげている。学校や教育委員会、地域のコミュニティと連携して子どもたちと地域社会との接点を作っている。

2) 今までに採択された団体

今までに15の都道府県より約50団体が採択されている。採択団体は茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、岡山県、広島県にあり、日本の全都道府県にあるわけではない。北海道、九州、東北地方にはない。集住地域では複数団体が採択されている。例えば神奈川県では大和市のAJAPEと横浜市の団体の2つである。

3) 年度ごとの採択件数、採択された団体の参加人数

事業がスタートした2009年度は、34団体、1251人の子どもたちが「架け橋教室」に参加した。但し、2009年初年度は11月から始まったので、参加人数は5ヶ月間のものである。右の表は、IOM発表の年度ご

1-3 年度ごとの採択件数、参加人数
NÚMERO DE GRUPO Y PARTICIPANTES

2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
34団体	42団体	39団体	23団体	21団体
1,251人	2,436人	1,444人	1,164人	1,254人

IOM発表データより

¹ 「出入国管理及び難民認定法」が改正され1990年に施行された。改正により「定住者」の在留資格が創設され、日系3世まで就労可能な地位が与えられた。

との採択件数、参加人数である。

4) 年度ごとの参加人数と言語別内訳

右の表は、年度ごとの参加人数・言語別内訳である。

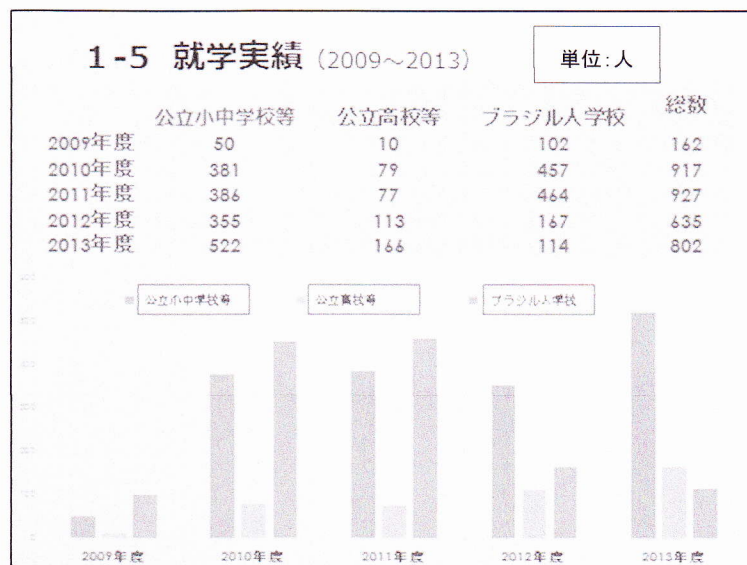
下の棒グラフを見ると分かるが、2009 年度開始時はポルトガル語が圧倒的に多くその後右肩下がり、スペイン語はほぼ横ばいである。一方、中国語、タガログ語が右肩上がりに増加している。特にタガログ語の増加が顕著で、2013 年には全体の約 3 割にもなっている。



5) 年度・大体ごとの就学実績

右の表は IOM が出しているデータで、子どもたちが最終的にどのような方向に進んでいったかを示す。公立の小中学校、公立の高等学校に進んだ子どもが徐々に増加している様子がわかる。

一方、ブラジル人学校に入っていく人は次第に減っている。今年 8 月に開催された「母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究大会」において、ブラジル人学校の閉鎖、統合が急激に進んでいるとの報告があった。帰国などで日本に居住しているブラジル人全体の人数が減ってきているのと定住化が進み地域の学校に入っていくケースが増加したためだと推測される。



2. これまでの AJAPE「虹の架け橋教室」の活動内容

AJAPE「虹の架け橋教室」について

1) AJAPE の特徴、参加人数、年度ごとの言語別内訳

AJAPE の特徴は、神奈川県でもスペイン語母語話者の多い地域に位置するので、スペイン語圏の子どもたちに母語を使用して指導を行っている点である。AJAPE にはス

ペイン語・日本語のバイリンガル教師が報告者を含め4名いる。AJAPE「虹の架け橋教室」は当初スペイン語圏が多いという特徴があったが、日本全体の流れと同じように変化し、次第に中国語、タガログ語の子どもたちが増え、多言語化してきている。2013年度にはタガログ語が30%近くを占めている。(表1)

表1 AJAPE 母語別人数(総数) (人)

	2009	2010	2011	2012	2013
ポルトガル語	1	0	1	5	14
スペイン語	70	28	22	27	45
中国語				1	8
フィリピン語			12	16	22
その他			4	5	5

表2 AJAPE 在籍児童生徒数 (人)

	2009	2010	2011	2012	2013
就学前 ²	14	9	0	0	17
小学校相当年齢	32	16	27	41	59
中学校相当年齢	17	3	12	6	12
高校相当年齢	8	0	0	9	7
計	71	28	39	56	95

2) 年齢別参加人数

年齢別に参加者を見ると、圧倒的に小学生が多い。大和市内に限らず近隣の綾瀬市、海老名市、座間市、相模原市、厚木市などからの参加者もいる。2009年度はバイリンガルでの就学前の授業(プレスクール)が許可されていたので、14人の参加者がおり、母語での指導を受けていた。(表2)

3) 授業実施状況

AJAPEは、毎月1回IOMに報告書を出しており、細かいデータも提出している。その中に授業実施状況がある。これは日ごとに「どのような内容」で「何時間授業を行った」かのデータである。(表3)

2012年度の年間時間数が他の年度に比べ、多い。これは高校受験希望者の参加が多かったからである。IOMからは、基本的には「架け橋教室」での日本語初期指導は半年をめどとし、半年過ぎたら学校に戻すようにとのアドバイスがある。しかし、高校受験生の場合、受験は翌年であり、受験結果が分かるのは2月末ごろまでとなるため、何月に入ってきてても翌年2月までの在籍となる。また、受験生は教科の学習が多くなり、一日の授業時間数が長い。その結果、高校受験希望者が多い年度は、授業実施時間が多くなる。高校受験の場合ほぼ毎日の参加となり、人数が多いと指導スタッフや授業時間などの調整が大変である。

指導に関するスタッフの話し合いで議論になるのが日本語の授業と教科の授業とのバランスである。日本語の初期指導は教科の指導に含まれていない。しかし、算数に関

² プレスクールは2009年度より毎年実施しているが、ここには「虹の架け橋」事業に含まれた年度の人数を記載する。

しては算数担当のホルヘさんが、長年経験を積み、算数という教科を教えながら日本語の指導も行っている。

表3 AJAPE 授業実施状況 (時間)

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年
日本語	594	985	2479	5648	3900
教科	1556	1147	815	1914	1378
実技	0	106	31	136	60
その他	42	0	0	36.5	61
母語	100	51	0	140	0
総計	2292	2289	3325	7874.5	5399

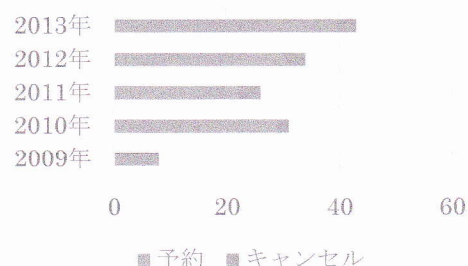
4) 不就学、不登校の子どもへの対応

AJAPE の特徴であるスペイン語でのカウンセリングについて報告する。

不就学不登校になっている子どもへの対応はカウンセリングなしには解決が難しい部分があり、カウンセリングは子どもだけではなく保護者と共に、保護者の使用できる言語で行うのが望ましいと考えている。AJAPE では月 1 回、夕方 6 時から 9 時まで、面接時間 50 分として行っている。依頼しているカウンセリング担当者は、日本の臨床心理士の資格を取ったスペイン語母語話者で、日本語、スペイン語、英語でのカウンセリングができる。母語で対応できるカウンセラーは他にもいるが、「日本の資格」取得者にこだわった。「日本の資格」取得者の場合、日本の対応機関の情報を持っており、カウンセリングを行った後日本国内の機関につながることができる。相談の後、ケースによっては個人情報に気をつけながらその後もサポートも行っている。(表 4)

表4 AJAPE カウンセリング件数 (件)

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年
予約	8	29	22	30	39
キャンセル	0	2	4	4	4



右のグラフで分かるように、キャンセルがある。1ヶ月に1回、完全予約制で行っており、希望者が多くて調整に困ることもある。キャンセルは、稀に病気で来ることができなくなったというケースがあるが、ほとんどが当日になって急に、あるいは連絡もなしにというケースである。これを見ると問題は子どもだけではなくその環境を作っている保護者にも何らかの問題があるのではないかと思わざるを得ない。カウンセラーと共に報告者も待っているが、約束の時間になっても連絡がなく、待てど暮らせど現れずキャンセルとなる。そのような時はもう次回声をかけるのはやめようかと話すこともある。しかし、本当に必要なのはそのような環境にいる子どもを救うことだと気を取り直し、

再予約の声掛けをしている。

5) 日本語初期指導

AJAPE の特徴、誇ってもいい点は日本語の初期指導にあると思う。担当の矢沢さんは、日本語教育の専門家で子どもの日本語教育に真剣に向かい合って子どものためのカリキュラム、教材などの工夫、開発などを行っている。詳しくは矢沢さんの報告を聞いていただきたい。

6) 進捗会議

会議では、子ども一人ひとりの状況について意見交換を行う。時にはいつ指導を終了したらよいのかということ話し合う。報告書の方の内容は高野さんの報告を聞いていただきたい。

全体コーディネーターとして

報告者が全体コーディネーターとして行っている活動を報告する。まず、大切なことは教育委員会、学校、保護者、カウンセラーとの連携や連絡である。また、ケースによっては各自治体の教育相談や発達相談のセクションにもつなげる。このとき心しているのは、子どもの事例を「診断」や「相談」することが大切なのではなく、親が担当者から質問されることで「子どもにどう接しているか」や「子どもの教育やしつけをどう考えているか」を振り返る機会としてくれるようにということである。

報告者は可能な限り同行し、面接や話し合いの通訳を行っている。

AJAPE の「虹の架け橋」以外の活動について

- (1) 文化庁委託事業：①地域の子どもの日本語教室（小学生の読みの力を中心とした支援教室）②群馬県伊勢崎市大人の日本語教室、③バイリンガル教師養成講座
- (2) スペイン語の継承言語教室：大和市で子どものために月3回スペイン語教室を開催している。
- (3) かながわ国際交流財団支援「AJAPE 読み聞かせの会」：スペイン語・日本語の2言語で開催している。母語（継承語）の読み、書きが苦手な子どもたちも絵本の読み聞かせを「きく」ことはほとんどが出来る。
- (4) 大和市との協働事業「大和プレスクールにほんごひろば」：就学前の子どもたち対象の事業である。
- (5) 町田での学習支援教室：ボランティアによる子どもたちへの学習支援を行っている。
- (6) スペイン語の教育相談：日本全国からの電話、メールによる教育相談をスペイン語で行っている。

3. 虹の架け橋教室の課題

➤ 「虹の架け橋教室」の活動について周知されていない。

2014年7月に大和市内の小中学校にアンケート調査をさせていただいた。教育

委員会指導室指導主事、清水先生にご苦労いただき教育委員会より学校便でアンケートの配付、回収をしていただいた。小学校から 23 名、中学校から 13 名の回答があった。アンケートの中の「AJAPE の教室を知っているか」という質問に、「はい」と答えたのは小学校 21 名、中学校 12 名で、「架け橋教室を知っているか」には、「はい」が小学校 12 名、中学校 1 名であった。「AJAPE が文部科学省、IOM の支援を受けているのを知っているか」の問いには、「はい」が小学校 16 名、中学校 9 名だった。地元の大和市でさえもこのような状況なので残念ながらこの事業は知らない人が多いと言える。

- 事業が終了しても、支援を必要とする子どもたちがいなくなるわけではない。
- 委託事業を運営してきた団体は、それぞれノウハウを蓄積してきた。そのノウハウを喪失させず引き続き活用できる方法はないだろうか。
- 教育委員会や学校では難しい支援があるのではないか。地域の団体が引き続き担うことはできないのだろうか。

以上が「虹の架け橋教室」と AJAPE 大和教室のこれまで」の報告である。